

「平成 24 年度保物セミナー」の開会の挨拶

只今、紹介いただきました辻本です。

今回の保物セミナーの参加申込は 12 月末には非常に少なく、心配しておりましたが、年が明けた頃より多くなり、本日このようにたくさんの方がご参加頂きました。ありがとうございます。先ほど受付の者に聞きましたところ今回の参加者は 160 名（正確な参加者は 181 名）を超えるであろうということでした。本当にありがとうございました。

今回のセミナーは福島事故関連をとりあげました。内容を大きく分類致しますと、3 つのテーマと特別講演の 4 つになります。テーマ 1 は福島事故関連で保健物理関係者が非常に活躍されております、そこで、これらの人の取組と放射線防護上の課題について討議していただきます。テーマ 2 では福島事故に関連し、リスクコミュニケーションが問題になっております。リスクコミュニケーションでは科学技術者とマスコミの役割が非常に重要です。そこで、テーマ 2 では科学技術者とマスコミの役割について討議していただきます。テーマ 3 では現在、事故直後の半減期の短いヨウ素による被ばくが問題になっております。そこで、低線量放射線影響の最近の動向につ

いてご討議して頂きます。特別講演として原子力規制庁が新しく設立され、従来の文部科学省の業務が原子力規制庁に移管していきます。そこで、文部科学省の人より最新の放射線安全行政の動向についてご講演していただきます。

今回お話して頂く先生方はこの方面で非常にご活躍されている人達で、最新のお話を聞くことができるものと思っております。最後までご聴講及びご討議頂き、よきセミナーになることをお祈りしております。

これまでの保物セミナーは日本保健物理学会、日本アイソトープ協会、大阪科学技術センター、関西原子力懇談会と電子科学研究所の5団体の共催で行ってまいりましたが、今年のご事情がございまして日本アイソトープ協会、大阪科学技術センター、関西原子力懇談会と電子科学研究所の4団体の共催となりました。しかし、保健物理学会の人達は例年と同様にご協力頂きました、本当にありがとうございました。さらに関西の産学管の人達が運営委員としてご活躍頂き、本日のセミナーを開催に漕ぎ付くことができました。本当

にありがとうございました。このように沢山の人達のご協力により
本セミナーを開催する事が出来たことについてお礼を申し上げまし
て、開催の挨拶に変えさせていただきます。

辻本 忠